

平成 29 年度 (2017)

国語 (第 1 回)

設問		得点率 (%)	設問		得点率 (%)
1 説明文	問1	51.2	2 物語文	問1	39.4
	問2	61.5		問2	28.3
	問3	96.9		問3	95.9
	問4	62.9		問4	23.4
	問5	42.4		問5	58.1
	問6	81.2		問6	83.7
	問7	84.4		問7	99.4
	問8	33.5		問8	61.8

1 出典：稲垣栄洋『植物はなぜ動かないのか』

問一 文中で使われている「高度な進化」の意味を説明する問題です。ここでは「高度な」がそれぞれの生物が生存のために進化していることを指します。また「進化」についても説明する必要があり、「身体の形態や機能を発達させ変化させること」などの置き換えが求められます。答案の多くには主語が欠落していたり、本文の表現をただ抜き出したままであったりして、設問の要求に答えられていませんでした。

問二 アリストテレスと仏教の例が挙がっていますが、これらは植物が動物とは別扱いを受けていたことを述べるために置かれているものです。両者に因果関係があるわけではありません。おおむねできていました。

問三 直後の「穏やかな暮らし」を説明するものとしてふさわしいのは「平和的」です。

問四 「分類法が確定」しないのは、「生物の世界にも明確な境界があるわけではない」からです。それは、その境界も人間が作った分類に過ぎないからです。聞かれているのは「区分」の仕方が何通りもある理由ですが、人間が区分をつける理由について述べる解答が多数でした。また、主語がなかったり、文の構造がおかしかったりする人が多くみられました。

問五 ミドリムシが特異な生態をもつことが進化の在り方にとっては当然のことである理由を述べる問題です。人間の考える進化の在り方がすべての動物に当てはまるとは限らず、それぞれの生物が生き残りのためにそれぞれの仕方で進化したということをまとめます。進化の在り方に対する説明がなかったり、ミドリムシが動植物両方の性格をもつこ

との説明がなかったりして中間点にとどまるものが大半でした。

問六 つなぎことば（接続詞）に関する問題でした。おおむねできていました。

問七 漢字の書き取りです。楷書で書かれていることを条件としました。筆記書体の多様性には配慮して採点しました。

問八 本文の内容に合致するものを選ぶ問題です。アはアリストテレスの考えが植物観に影響を与えたとする内容はありません。ウは植物を尊敬すべきというのが本文になく、エは植物と動物を分類することが無意味とまでは述べられていません。ウ、エとする答案が多くみられました。

2 出典：辻村深月『家族シアター』所収『1992年の秋空』

問一 軽々しく受け入れる意味の「安請け合い」という慣用表現の知識を問いました。

問二 「表情をなくす」という言葉の意味の説明と、心情の変化の要因を具体的に説明する記述力を問いました。多くの答案では「表情をなくす」を驚嘆の意味で説明しており、困惑の感情を説明できていませんでした。また誰が誰の行動に対して起こした心情であるのかの説明が曖昧でした。

問三 慣用句の問題です。よくできていました。

問四 「ほっとした」「残念」の両方の気持ちを説明する必要があります。前者はうみかが一人だけで練習を続けていないことに対する安心であり、後者は自分を待ってくれなかったことに対する気持ちです。説明が求められているので、解答には「ほっとする」や「残念」は使わないことが原則です。二つの心情の説明を併記することが求められていることを踏まえた解答にしなくてはなりません。答案は以上の条件を満たすものが少なく、部分点にとどまるものが大半でした。

問五 「貝殻を当てて音を聞く」という比喩が何を意味しているのかを説明します。「私」がぼんやりとしている原因には、妹の怪我を知ったことへの驚き、練習に立ち会わなかったことへの反省の気持ちが含まれています。

問六 抜き出された文の「漫画が読みたい」「すぐに返事をした」「別の理由」などがヒントになります。

問七 副詞を入れる問題。よくできていました。

問八 本文の内容に合うものを選ぶ問題です。アは「本心ではあきれている」「妹に伝わらないように必死で」などが本文に合いません。ウはミーナに姉妹の仲がいいと思われるのがかっこ悪いと思ったという本文の内容に合いません。エは異変に気づくまでの順番が本文とはちがいます。